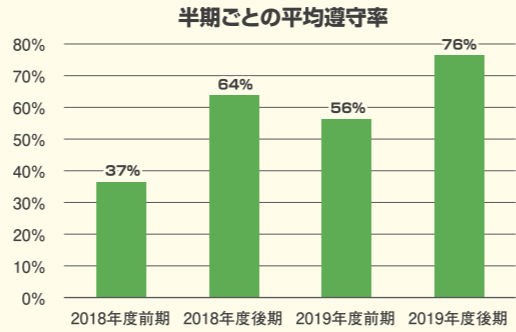


数字でみる錦海リハ

手指衛生の徹底を目指して!

病院の感染対策で一番大事なことは、感染症のありなしに関わらず全ての患者さんに接する前後に手指衛生を徹底することです。手指衛生の遵守率を測る目安として、病室に入出入りする全ての人の手指消毒の割合をモニタリングしています(※)。2018年度は平均して49%であったのに対し、2019年度後期は76%と遵守率の向上が見られています。今後も新型コロナウイルスなどへの対策としても重要な手指衛生の徹底を目指します。

※当院では各病室への入室時・退室時の手指消毒有無の評価を定期的に実施しています。厳密にモニタリングを行うため評価実施日は職員に告げず院内感染防止対策委員会が実施しています。



新任副院長のご紹介

4月1日より、藤井春美副院長兼看護部長が着任いたしました。

副院長兼看護部長
藤井 春美 (ふじい はるみ)

藤井副院長からひと言

地域でその人らしく暮らせるために“患者さんの傍で寄り添い、その人らしさを引き出す”支援および、職員が働きやすい職場づくりに尽力します。どうぞよろしくをお願いします。



藤井春美副院長兼看護部長

専門雑誌・書籍掲載

- IMADA Ken (共同) 理学療法士・リハビリ技術部課長、他 Relationship of Quadriceps Muscle Thickness with Motor Paralysis and Muscle Echo Intensity in Post-Stroke Patients. *European Neurology* Vol.81(1-2), 2019
- 今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)、上村博一、長崎正義(理学療法士)、角田賢(医師・病院長)、井後達之(医師・名誉院長) 地域自立と回復期リハビリテーション施設による転倒リスクを拡大した「アクティブシニア健康教室」
- 回復期リハビリテーション病棟協会機関誌連登70号、回復期リハビリテーション病棟協会、2019.10
- 吉田倫子(作業療法士)、北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)、角田賢(医師・病院長) 交通過疎地域での移動支援から地域に信頼される病院へ
- 回復期リハビリテーション病棟協会機関誌連登71号、回復期リハビリテーション病棟協会、2020.1
- 竹内文典(言語聴覚士・病院長)、今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長) 回復期リハビリテーションに求められるもの。スタッフ教育
- 総合リハビリテーションVol.48(2)、医学書院、2020.2

外部講演

- 角田賢(医師・病院長) 地域包括ケア時代のリハビリテーション
- 第1回ケアマネジャー向けセミナー、錦海リハビリテーション病院主催、2019.7.8、米子市
- 吉田倫子(作業療法士) 当院における自動車運転評価の取り組み
- 第2回ケアマネジャー向けセミナー、錦海リハビリテーション病院主催、2019.8.8、米子市
- 佐藤裕子(言語聴覚士) 失語症に対する取り組みと失語症サロンスマイル
- 木嶋美菜(管理栄養士) 在宅でいつまでも元気に食べられるように〜地域における栄養管理の重要性〜
- 第3回ケアマネジャー向けセミナー、錦海リハビリテーション病院主催、2019.9.9、米子市
- 北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長) とつり方式認知症予防プログラムの体験
- 市町村・介護事業所向けとつり方式認知症予防プログラム説明会、鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局主催、2019.10.1、米子市
- 原大樹(理学療法士・リハビリ技術部主任) 膝痛を予防するための体操と生活の中で気を付けることの紹介
- 第4回アクティブシニア健康教室、2019.10.5、米子市
- 水佐良吉(言語聴覚士) より良い在宅生活を過ごすための訪問リハビリの活用
- 第4回ケアマネジャー向けセミナー、錦海リハビリテーション病院主催、2019.10.8、米子市
- 北原忠生(臨床歴史理学療法士) 巻物を用いたの産科助産と巻物、巻物
- 山陰言語聴覚士協会 新人研修、山陰言語聴覚士協会主催、2019.10.12、米子市
- 足立純未(理学療法士) ロコモに対する予防体操
- 第47回アクティブシニア健康教室、2019.10.18、米子市
- 遠藤美紀(理学療法士) 筋肉の基礎知識と日常生活で行える筋力運動
- 第48回アクティブシニア健康教室、2019.10.18、米子市
- 竹内文典(言語聴覚士・病院長) シンポジウム「回復期リハビリテーション病棟をセラピストからの視点〜錦海リハビリテーション病棟開設後13年間のあゆみ〜
- 第50回PTOT研修会、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2019.10.19-20、千原泉
- 北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長) 日本と世界の作業療法士の動向
- 令和元年後期現職者共進研修会、鳥取県作業療法士会主催、2019.10.6、米子市
- 三島裕太(作業療法士) 生活の中で麻痺手を使うためのリハビリテーション〜具体的事例を通して考える〜
- 第5回ケアマネジャー向けセミナー、錦海リハビリテーション病院主催、2019.11.11、米子市
- 若田久典(言語聴覚士・リハビリ技術部主任) しっかりと噛んで飲み込んでおいしいものを食べて健康長寿
- 口から始める健康づくり講座フォローアップ講座【大和地区】、米子市主催、2019.11.26、米子市
- 北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長) とつり方式認知症予防プログラムの体験
- とつり方式認知症予防プログラム指導者養成研修、鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局主催、2019.11.28、米子市
- 三好麻衣(言語聴覚士) しっかりと噛んで飲み込んでおいしいものを食べて健康長寿
- 口から始める健康づくり講座フォローアップ講座【明道地区】、米子市主催、2019.11.29、米子市
- 北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長) セラピー本楽習習会・病棟での取り組み
- 第49回PTOT研修会、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2019.11.30-12.1、広島県
- 角田賢(医師・病院長) 回復期退院後の生活リハビリ
- 全職種研修会(主任リーダーコース)、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2019.12.1、東京都
- 佐藤隆之(言語聴覚士) 「口から食べる」を支援する嚥下障害に対する取り組みと事例
- 第6回ケアマネジャー向けセミナー、錦海リハビリテーション病院主催、2019.12.9、米子市
- 角田賢(医師・病院長) 回復期リハビリテーション施設
- 全職種研修会、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2019.12.14、東京都
- 原大樹(理学療法士・リハビリ技術部主任) エコ・ミクスラ産後期の予防について
- 鳥取県作業療法士会 県民公開講座、鳥取県作業療法士会、2019.12.15、鳥取市
- 遠藤美紀(理学療法士) 「在宅へ繋ぐ」退院前訪問と退院後訪問を通じたケアマネジャーとの協働の重要性
- 第7回ケアマネジャー向けセミナー、錦海リハビリテーション病院主催、2020.1.9、米子市
- 角田賢(医師・病院長) 高齢者診療におけるリスク管理
- 鳥取県西部医師会研修、鳥取県西部医師会主催、2020.1.19、米子市

学会発表

- 上村剛一(理学療法士) 地域の健康高齢者を対象とした「アクティブシニア健康教室」4年間の取り組み
- 第31回リハビリテーション研究会 in Yonago, 2019.10.19、米子市
- 平野正樹(作業療法士・リハビリ技術部主任) 当院における栄養管理のためのデータ管理について
- 第9回電子カルテ連携病棟研究会、2019.10.19、兵庫県
- 足立純未(理学療法士) 回復期病棟で転倒を経験した患者におけるBerg Balance ScaleとFunctional Independence Measureの歩行項目の点数について2年間の調査から分かった転倒に繋がった原因
- 第4回日本予防理学療法学会学術大会、2019.10.19-20、広島県
- 佐藤隆之(言語聴覚士) 低栄養・嚥下障害の重症度と介護者に訪問言語聴覚士が関わることと経口摂取の不安と介護負担軽減に繋がった一例
- 上村剛一(理学療法士) MCIを維持・利用者の転倒により検討した訪問理学療法介入の一例
- 永岡直実(理学療法士) 理学療法プログラムの項目別による当部署のヒヤリハット発生傾向
- 星山望(作業療法士) 役割を待つことにより老年期うつ病の症状が軽減し生きがいを取り戻した事例
- 堀川隆樹(作業療法士) 脳卒中右片麻痺の発露ストームと過激者における左手手による尿原尿の排出口接続管着脱用補助具について
- 神坂綾(社会福祉士) (共同) 他 急性期病院退院調整部門担当者における回復期リハビリテーション病棟の選定と情報収集に関する検討
- リハビリテーションケア合同研究大会金沢2019、2019.11.21-22、石川県
- 山本未実(作業療法士) 視覚性運動失調が調理動作に影響を及ぼした頭頂葉、側頭葉病変の一例
- 第43回日本高次脳機能障害学会学術大会、2019.11.28-29、宮城県
- 遠藤美紀(理学療法士) 要介護者の転倒における介護負担に着目した退院後訪問調査
- 鳥谷香濃(理学療法士) 回復期病棟における23か月の発声回数調査からみた、転院時のFIM重症度分類と自宅復帰率の関連
- 第6回日本地域理学療法学会学術大会、2019.12.14-15、京都府

※氏名、職員の肩書きは掲載、開催時点のものであり現在は変更があります。

診療方針：わたしたちは 回復的リハビリテーション医療と地域連携を通して 患者さんの社会参加を支援します。

錦海リハビリテーション病院
〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5
TEL 0859-34-2300 [代表]
FAX 0859-34-2303



KINKAI REHABILITATION HOSPITAL NEWS



錦海リハビリテーション病院ニュース

発行：社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院

TEL：0859-34-2300 [代表]
E-mail：kinkai-hp@koho.jp
URL：https://www.kinkai-rehab.jp

2020 VOL. 11

SPECIAL 最前線 1

錦海リハビリテーション病院 当院の新たな取り組み

入院から退院、在宅へと、栄養管理のシームレスな連携を目指して

2020年、回復期リハビリテーション病棟が診療報酬で設定されてちょうど節目の20年になりました。この20年の間に回復期リハビリテーション病棟に求められるものはどんどん増加してきましたが、前回の診療報酬改定で回復期リハビリテーション入院料1で努力義務となっていた専任の管理栄養士配置がこの春からは入院料1で義務化され、その他入院料2〜6でも努力義務となりました。リハビリテーションの成果をあげるためにも栄養状態の改善は必須であることも研究発表されており、当院でも管理栄養士を中心に看護、介護、リハがチームで栄養サポートに関わる体制をつくり、入院中の栄養状態の改善を目指し、一定の成果をあげています。しかしこの栄養改善は入院期間中のみでは不十分で、退院後も継続したサポートが必要となるのは回復期リハビリテーションに続く生活期リハビリテーションの重要性と同様です。昨年からの管理栄養士2名体制とし、当院通所リハビリテーション利用者の栄養状態スクリーニングと指導を開始しました。今年は入院中から退院、在宅へとシームレスな連携をとることを目指してシステム構築を開始しました。まだ試行錯誤しながらですが、今後更に充実させていく予定です。



山影冬美管理栄養士による患者さんへの栄養指導の様子

子供たちへの言語リハビリテーションを始めました

そしてもう一つ、今年から当院では小児のリハビリテーションをスタートしました。とはいえ全ての分野の小児のリハビリテーションを実施できるスペースも設備もあり



角田賢病院長による小児リハビリテーションの診察の様子

ませので、小児の構音などの言語リハビリテーションに特化したリハビリテーションサービスの提供になります。

1階外近くにある言語療法室の一つを小児リハ用に改装しました。小児科、歯科など様々な地域の先生方からご紹介いただいた子供たちが当院にやってくるようになり、患者さんの平均年齢が一気に下がりました。診察室に入ってきてても緊張してなかなか話してくれない子、診察室の椅子でぐるぐる回って遊んでしまう子、お母さんの背中に隠れて出てきてくれない子など本当に様々ですが、何回か通院するうちに慣れてくれるようで、仲良くいろんなお話を聞かせてくれるようになってきます。発音の問題、文字の読み書き、それに伴う学習困難など子供たちの言葉に関する問題は本当に様々で、私自身も勉強させてもらう毎日ですが、子供たちの笑顔を励みに頑張っていこうと思います。

社会福祉法人 こうほうえん
錦海リハビリテーション病院
病院長 角田 賢

錦海リハビリテーション病院
リハビリテーション関連の職員数(回復期リハビリテーション病棟/48床)

- 医師:5名(うち リハビリテーション医学会 専門医2名・リハビリテーション医学会 認定臨床医4名)
- 看護師:25名
- 介護士:17名(うち 介護福祉士15名)
- 言語聴覚士:19名
- 理学療法士:19名
- 作業療法士:23名
- 社会福祉士:4名
- 歯科衛生士:1名
- 薬剤師:2名
- 管理栄養士:2名

令和2年4月1日現在(実人数)

SPECIAL 最前線 2

言語聴覚療法に特化した小児リハビリテーションの提供を始めました

2019年10月より、錦海リハビリテーション病院では、言語聴覚療法に特化した小児リハビリテーションの提供を始めました。

●どのようなお子さんに対してリハビリを行っているの？

ことばの発達に課題がある、就学前後のお子さんを対象とした言語聴覚療法を実施しています。

例えば…

- なかなかことばがでてこない、うまくお話ができない
- うまく発音できない音がある、はっきりとお話することができない
- 言いはじめのことばを繰り返したり、詰まったりしてしまう
- 文字を読んだり書いたりすること、文章を読み解くことが難しい



子どもたちが楽しんでリハビリテーションに取り組めるよう、様々な物品を使用しています。

●どのようなリハビリをしているの？

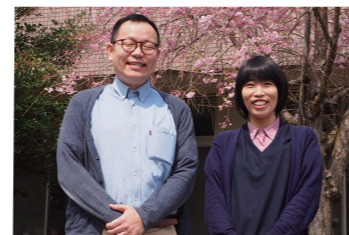
子どもたちはことばを獲得していく途上にあります。どのようなお手伝いをすれば次の段階に進むことができるのか、大人がどのように関わっていけばよいのかなど、ご家族と一緒に考えていきます。また、子どもたちは楽しいことが大好きです。子どもたちが興味・関心を持っていることに、療法士として取り組んでほしい課題を織り交ぜながら、遊びを通して発達を促していきます。



言語聴覚療法に特化した小児リハビリテーションの様子

地域貢献活動として、キッズタウンかみごとう内にある子育て支援センターにて「ことばの相談会」を月に2回実施しております。

お子さんのお話のことや発達のことで気になることがある、ことばの発達のことを聞いてみたいなどございましたら、お気軽にご相談ください。



当院で小児リハビリテーションを担当している、濱崎喬之言語聴覚士と渡邊真紀言語聴覚士。

SPECIAL 最前線 3

臨床検査室の紹介 臨床検査技師のお仕事

回復期リハビリテーション病棟での臨床検査技師の仕事を紹介しします

臨床検査室は診療に役立つ様々な検査を担当しています。血液や尿の検査からは全身状態や内臓の働き具合、糖尿病など疾病の病状が推測できます。心電図では心臓の電気信号を測定して活動状態を解析します。体組成分析は筋肉や脂肪の割合から入院中の栄養や運動強度の指標を提供します。細菌検査などは院外検査会社に依頼して連携を取り医療チームに様々な情報を提供します。



検査機器のメンテナンス、精度管理を行っています

検査機器が常に正確な値を測れるよう日々の管理が大切です。使用前に精度管理を行い、定期的にメンテナンスを行っています。機器メーカーの主催するサーベイの他、2つの外部団体精度管理調査に参加し、正確な検査結果をより迅速に提供できるよう努めています。



写真上は、自動血球計数値装置。写真右は、心電計。当院で使用する検査機器の管理・メンテナンスを実施しています。

より質の高い業務を実践するため各種認定資格を目指しています

当院の入院患者さんに多い病気に対応するために認定認知症領域検査技師認定資格や鳥取県糖尿病療養指導士資格を取得しています。

院内他部門との連携に努めています

院内のさまざまな委員会に参加し、他部門との連携に努めています。特に院内感染防止に関しては委員会事務局として院内外の感染情報を集めて職員に周知させ、また職員健診や職員の予防接種の業務管理も行い、職員の健康の維持と院内の感染制御に取り組んでいます。

TOPICS 01

当院看護師と鳥取大学医学部附属病院の退院調整ナースとの相互交流

2019年12月より鳥取大学医学部附属病院の退院支援ナースの研修を受け入れられました。急性期と回復期が相互交流を行い、患者さん、ご家族が安心して転院できる態勢が重要であると再認識しました。この交流をきっかけに、鳥取大学医学部附属病院の入退院支援センターを中心に、当院への紹介となる病棟看護師と当院の看護師の連携に向けた活動を開始しました。患者さんが住み慣れた地域で安心して暮らすことを目標に、急性期からの患者情報提供書の改定、患者指導用パンフレットの統一や内服自己管理の継続支援など意見交換を行っています。

この活動を地道に築き上げ、急性期と回復期の職員同士の信頼関係の形成、連携強化を図りたいと思います。



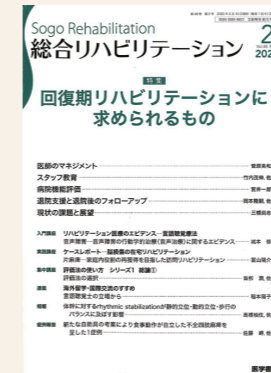
2020年3月6日に当院にて開催された鳥取大学医学部附属病院入退院支援センター看護師とのミーティングの様子

TOPICS 03

当院のスタッフ教育が「総合リハビリテーション」に掲載されました

回復期リハビリテーション病棟におけるスタッフ教育は管理者らを中心に思索が続いています。理学療法士作業療法士法の改定に伴う管理学の新設が養成校における新たな単位要件となり、その重要性は増す一方です。2019年度より施行された働き方改革を個々のスタッフが自身のキャリアデザインを今一度見直す契機ととらえ、管理者は個々のキャリアアップをいかに支援できる取り組みを創るかが求められています。

本稿では2006年の開院当初より試行を続ける4分野（臨床・研究・教育・地域活動）に注力する取り組みを紹介しています。



2020年2月発行「総合リハビリテーションVol.48(2)」(医学書院)

TOPICS 02

天易養老発展有限公司(中国)との調印式を開催

2020年1月14日 社会福祉法人こうほうえん、天易養老発展有限公司は、アザレアコートこうほうえんで「介護事業・リハビリテーション事業契約」の調印式を開催し、両者を代表して廣江研理事長と譚偉(タンウエイ)董事長が契約書に署名しました。

天易養老発展有限公司は、中国の急速な高齢化へ対応するため、蘇州市との共同プロジェクトにおいて、日本の介護・リハビリ技術の導入を計画しており、当法人が日本のパートナーとしてサポートしていくこととなりました。錦海リハビリテーション病院は、主にリハビリテーション分野において本事業へ参画し、現地へのノウハウの提供や人材育成などに貢献していきます。

社会福祉法人に対する積極的な社会貢献活動が求められている中、国内に留まらず海外にも目を向けた国際貢献活動の一步となりました。



アザレアコートこうほうえんでの「介護事業・リハビリテーション事業契約」の調印式の様子

TOPICS 04

上肢用ロボット型運動訓練装置 ReoGo-Jを導入しました

この度、当院では上肢用ロボット型運動訓練装置ReoGo-Jを山陰で初めて導入しました。ReoGo-Jは患者さんの上肢麻痺の程度に合わせ、17種類のアームの動きと5種類の異なる訓練モード、負荷や速度、範囲などを組み合わせて訓練メニューを設定できます。そしてコンピューター管理により、安全に訓練を行いながら、訓練量の確保が可能となります。また訓練記録が保存され、グラフ等で訓練結果を表示でき、患者さんのモチベーション維持向上にも期待がもてます。回復が難しいとされる上肢麻痺に対し、質・量の高いリハビリテーションを提供していけると考えております。



上肢用ロボット型運動訓練装置ReoGo-J